

【祝！関東屋久島会設立】

首都圏在住の屋久島出身者の方々により、このたび、「屋久島とともに」のスローガンのもと、関東屋久島会が設立されました。

関東屋久島会は、各出身集落単位で組織された「出郷者会」（23集落・10団体）によって構成されており、各会の会員の中から入会を希望された方々が会員となり、会員数159名という多くの会員の方々の参加のもと発足しました。

11月30日（日）に、東京都の主婦会館・プラザエフで、多くの来賓を迎え、100名を越える会員の参加のもと、設立記念祝賀会が盛大に開催され、今後の活動として、屋久島町及び関係先との綿密な連携のもと、屋久島の発展に寄与することや、屋久島を愛する人々の輪を広げること等を目指していくことが確認されました。

会長：高橋 重俊（東京宮之浦会・名誉会長）
副会長：岩川 尚美（屋久島安房会・会長）
"：永網 正秀（関東愛子会・会長）



平成20年度 第3回屋久島研究講座 海山と生きる ～21世紀を生きる若者と若者だった人々へ～

12月3日（水）に本年度3回目の屋久島研究講座が開催されました。「国際サンゴ礁年」を記念して、「国際サンゴ礁年2008屋久島実行委員会」の皆さんと一緒に入川暁之氏を講師にお迎えし、「サンゴ・サンゴ礁について」「沖縄サンゴの状況について」「屋久島サンゴについて」「地球環境を守るために私たちにできること」について話をいただきました。

入川氏の優しく、親しみのもてる語り口と分かりやすい説明に会場の皆さんは時間の過ぎるのも忘れ、聞き入っていました。

最後に「一人ひとりが、現状について知り、できることから始めていきましょう。」と提案をして講座を終えられました。

回収したアンケートの中にも「さっそく、地球のためにできることを探します。」と心強い言葉も寄せられていました。

「琉球サンゴ君」としても活躍中の入川氏は、「また、絶対来ます。」という言葉を残して、次の日、あわただしく沖縄に帰っていかれました。



まるりんの仲間たち名前募集 中間報告

1月6日現在で、**200**通を超える応募をいただきました。1枚の応募用紙に12のキャラクター全部の名前を考慮していただいた方もいらっしゃいました。また、島内の全小中学校の先生方のご協力もあり、島内の児童・生徒のみなさんからもたくさんの参加がありました。本当にありがとうございます。

採用された名前は**105号(3月)**で発表する予定です。もうしばらくお待ちください。

ありがとう



～財団職員がそれぞれの想う「屋久島」について語るコーナー～

連載【屋久島を想う】 ④6



『イイ！！』

村センター勤務：永田 祥子さん

屋久島に来て、早くも2年と10ヶ月…。本当に「あっ！！」という間だった。

全くアウトドアなんて興味のなかった私が…。奥岳へと足を踏み入れた時のあの澄みきった、神聖な雰囲気、海ではキラキラと光るキビナゴ、カマスの美味しそうな群れ、山に海にとかなり満喫。屋久島だけは別格だ。

屋久島に来れたこと。それ自体、私にとって人生の転機になったと思う。

この素晴らしい屋久島が未来永劫見られるよう何かしなくては！という思いにかられる今日この頃だ。

屋久島環境文化村中核施設 イベント/休館日のお知らせ

村センター

休館日

1月1・5・13・19・26日/2月2・9・16・23日

イベント

交流ホール 屋久島高校環境学習^h 初展

研修センター

休館日

1月1・2・3・5・13・19・26日/2月2・9・16・23日

イベント

星空観察会 2月20日(金) (金岳小)

まるりんのはひふへホットタイム

(財団職員の「ハア、ひい、フウ、へい～」な話題をお届けします。)

☆あけましておめでとうございます。今年もまるりん通信をよろしく願います。(シャクナゲ姫)

☆今年も、村センターの門松を手作りしました。郷土誌を参考に昔の門松を再現してみました。

気づいてくれましたか？ (夜光貝)

☆新年になり、いまだ種子島に行く野望も達成されてません。バイクの修理ついでに種子島に行こうか思案中。(バイカー104)